

「海外研修で感じたこと」

内海中学校 三年 壽山智也

世界が広いところも海は違うものだろうか。今回 B&G の方々のおかげで、僕は、太平洋の真ん中にあるハワイ・オアフ島に海外研修に参加することができた。

初日にワイキキ海岸を視察して驚いたのは、ワイキキ海岸に広がる海は自分の地域の海と全く違っていったことだ。ワイキキ海岸の海の色はエメラルドグリーンと呼ばれるにふさわしい明るい美しい海だった。僕は自分の地域の海の濃い青色が海の色だと思っていたので驚きも二倍だった。もう一つ驚いたことは、ごみが全くなかったことだ。自分の地域の海は年々ごみが増えていることが問題の一つになっていて、特に今年のごみが多かったような気がする。夏もごみが多くて海で泳げない日何日も続いたのを覚えている。ところがどうだろう。ハワイの海ではごみを全く見ないばかりかすぐその浅瀬を魚が生き生きと泳いでいる。泳いでいるのは色鮮やかな見たこともないような魚ばかりだった。その景色を見て僕は自分の地域の海がこんなにきれいだったらなとハワイの海がうらやましかったし、自分の海も変えていかないといけないと思った。



次にワイキキ水族館に行った。この水族館は、主にハワイの海の生物を展示したアメリカで三番目に古い水族館だそうだ。僕は、身近にある珊瑚について、ハワイでお世話にな



った裕子さんからもらった資料と水族館の施設を使って調べることにした。調べていくと最初に珊瑚は動物だということが分かった。珊瑚は光合成するくせに動物という何とも不思議な生物だ。しかも珊瑚には小さな単細胞の藻が共生しているのだ。調べれば調べるほど訳がわかなくなってくる。光合成しながら単細胞生物と共生している生物なんて想像もつ

かない。それから、ハワイの珊瑚でもいろいろな種類があって、その珊瑚が住んでいる場所によって形は全然違うことが分かった。波や水の動きが強い【ココヘッドの断崖など】では、断崖にへばりついている感じで人の脳みみたいな形がほとんどで暗い色だった。穏やかな湾内【カネオヘ湾など】では、鮮やかな色が多くて形は様々だった。自分の地域の海はテーブルのような形で暗い色の珊瑚が多かったので、この珊瑚とはまるで正反対と思った。裕子さんは流れが穏やかなところでは珊瑚は上に成長すると言っていた。確かに水槽をみると穏やかな湾内の珊瑚は生き生きと生きている感じがした。でも波や水の動きが強いところの珊瑚も必死に生きている感じがしてどっちにも「命」を感じた。しかし、深く流れのあるところ【35m以深】の珊瑚は岩をそのままかたどっていて、この珊瑚は生きているのか？と思うほど岩と一体化していた。そして珊瑚の生きていく条件についても考えてみた。その条件は暖かい水温、光合成するための日光、珊瑚も塩分が必要なので海水であること、そして何よりその海がきれいな海であるという四つほどの条件が分かつ

た。僕は、珊瑚はその海で生きていく生物であると同時にその海がきれいであるという象徴だと思った。そして自分の地域の海に珊瑚が生きていることがうれしくなったし、これからはこの珊瑚を残していかないといけないと思った。珊瑚礁は海の他の生物にとって敵から身を守る隠れ家の役割もあると思う。つまり珊瑚は海の生物を守るはたらきがあるのだ。だから珊瑚を守るということは海の生物も守ることになるからこれからは珊瑚を守っていく必要があるのだ。このワイキキ水族館で僕はひとつ大切なことを学ぶことができた。

二日目に見たサンセットビーチの海は水色のきれいな海でしかも波が高かったので、この海も自分の地域の海とは全く違いとても驚いた。何より初めて見る自分の頭よりはるかに高い波に圧倒された。それから砂浜を裸足で歩くことができた。自分の海は砂浜ではなく石だらけなので砂浜を歩くのは初めてだった。一歩踏み出すと足が白く優しい砂に包み込まれていくそんな感じだった。とても気持ちがよくてついはいしゃいでした。



はしゃいでいると裕子さんがゴミ袋と靴を拾ってきた。なんとこのごみはこの海岸に流れ着いたものだというのだ。これには驚いた。海に誰かが捨てたごみは途中で沈むのではなく一部はこうして海岸に流れ着いていたのだ。しかもこのことが今、ハワイでは問題となっているのだ。誰かが捨てた魚網にハワイにしかない珍しいアザラシのハワイアンモンクシールがかかって死んでしまうとのことだ。捨てる人は悪意があるわけではないと思う。ただなんとなく捨てていると思うけど、それによって生物の命が失われているのが事実だ。政府も対策を出しているらしいが早く何とかしてほしいものだと思った。

この研修でぼくは自分の身近にある海について、見て、触れて、感じて、考えて、教えてもらい大切なことをいろいろ学ぶことができた。僕たちは海と共に生きている。だからこそもっと海を身近なこととして考えていくことが必要だし、それが日ごろお世話になっている海へのお礼になると思う。こんな貴重な体験を与えてくださった B&G の皆さん本当にありがとうございました。